

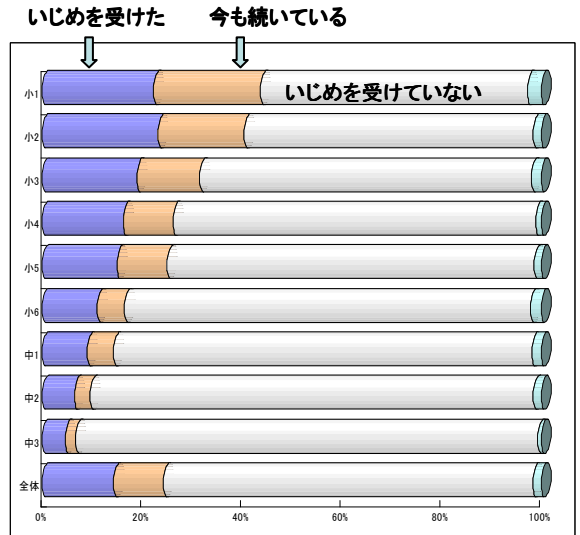
## 調査結果(いじめ実態把握アンケート)

### 10,315人中2,508人が何らかの「いじめ」を受けた

無記名でアンケートを行ったことによって、これまでの調査よりもはるかに多くの子どもが「いじめを受けた」と回答しています。の中には、けんかや一時的なトラブルなど、いじめとは異なるものも含まれていると考えられます。いずれにしても、学校の認知件数の20倍以上の子どもたちが、「いじめ」と感じるような「いやなことをされた」経験があるということがわかりました。

### 今も「いじめ」を受けている子どもが約4割

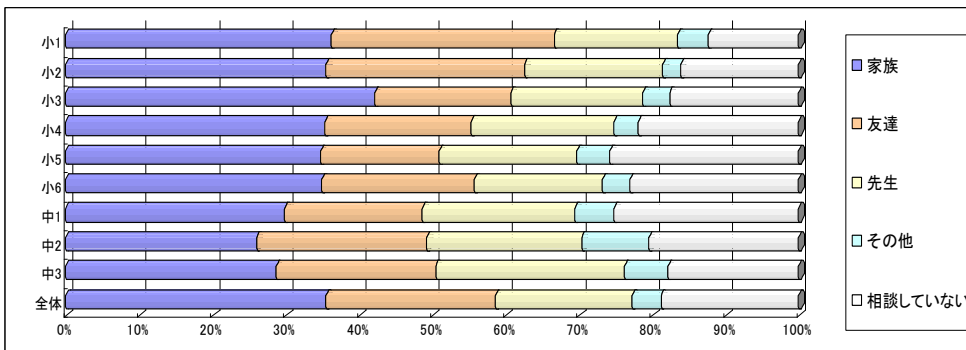
いじめを受けた2,508人中「いじめは今も続いている」と回答した子どもは約4割の1,022人いることがわかりました。各学校ではこの調査結果に基づいて、生徒指導担当を中心としたチーム対応や児童生徒相談等による状況把握、スクールカウンセラー等を活用した相談体制の実施等を行いました。



### 学年が上がるごとに「いじめ」を受けた件数は減ってきている

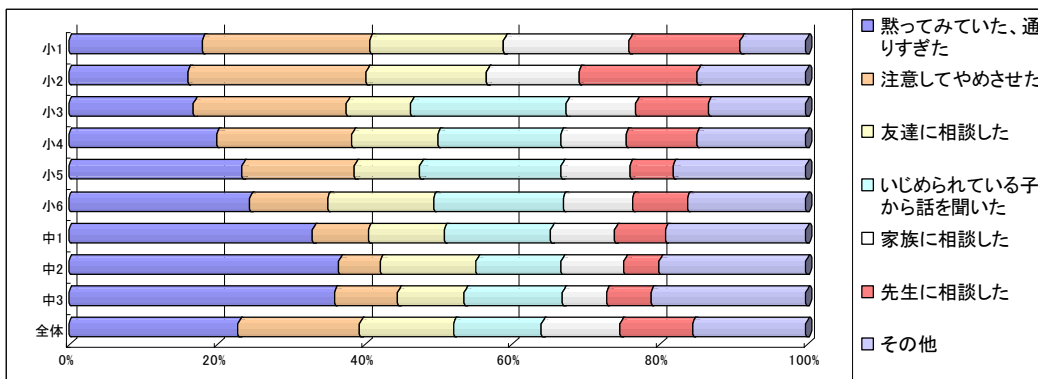
小学校1年生では4割以上の子どもが「いじめを受けた」と答えており、学年を追うごとに数は減少しています。この理由として、低学年ほどいじめの感じ方・捉え方が多様であることや、学校における集団づくりの取り組みによって、高学年になるにしたがって安定した人間関係が築けるようになったことなどが考えられます。

### 「いじめ」を受けて「だれにも相談していない」子が2割近くいる



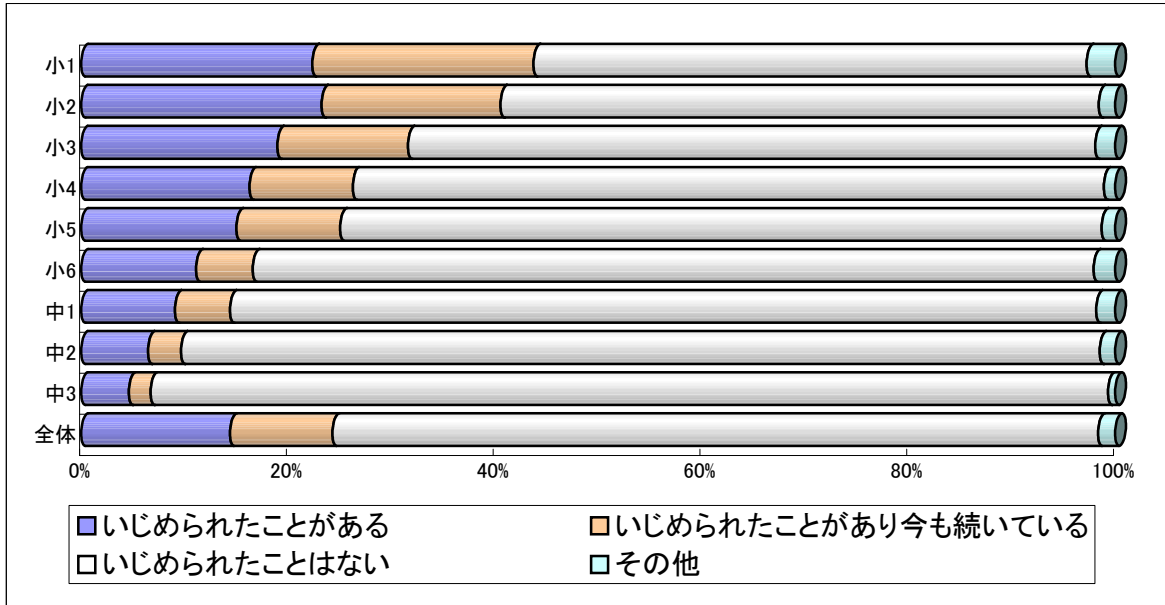
いじめられたことを相談する相手としては、「家族」が約36%、「友だち」「先生」がそれぞれ2割前後となっていますが、「だれにも相談していない」という回答も低学年で12%、高学年で26%と高い数字になっています。全体でも19%と多くの子どもが相談できずにいるということで、見えにくいいじめが懸念されます。

### 「いじめ」られているの「見て見ぬふりをした」子が学年が上がるにつれて増加

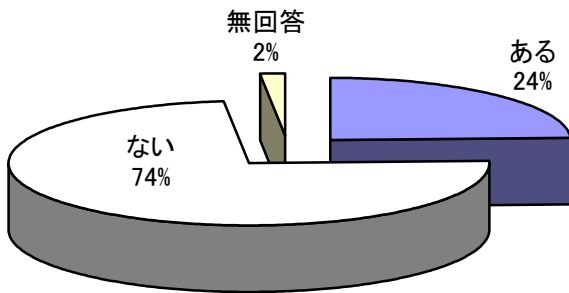


いじめを見たときに、「黙って見ていた」「その場を通り過ぎた」と答えた割合が学年が上がるにつれて増加している一方、「注意してやめさせた」「だれかに相談した」は減っています。高学年になるにしたがって、いじめの件数は減るものの、いじめられた本人は相談しなくなり、周りも注意しにくくなることから、より分かりにくく、解決が困難になっていくことがわかります。

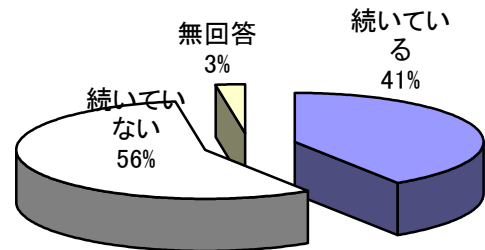
【グラフ1】「いじめられたことがある」「今も続いている」（学年別） **参考資料**



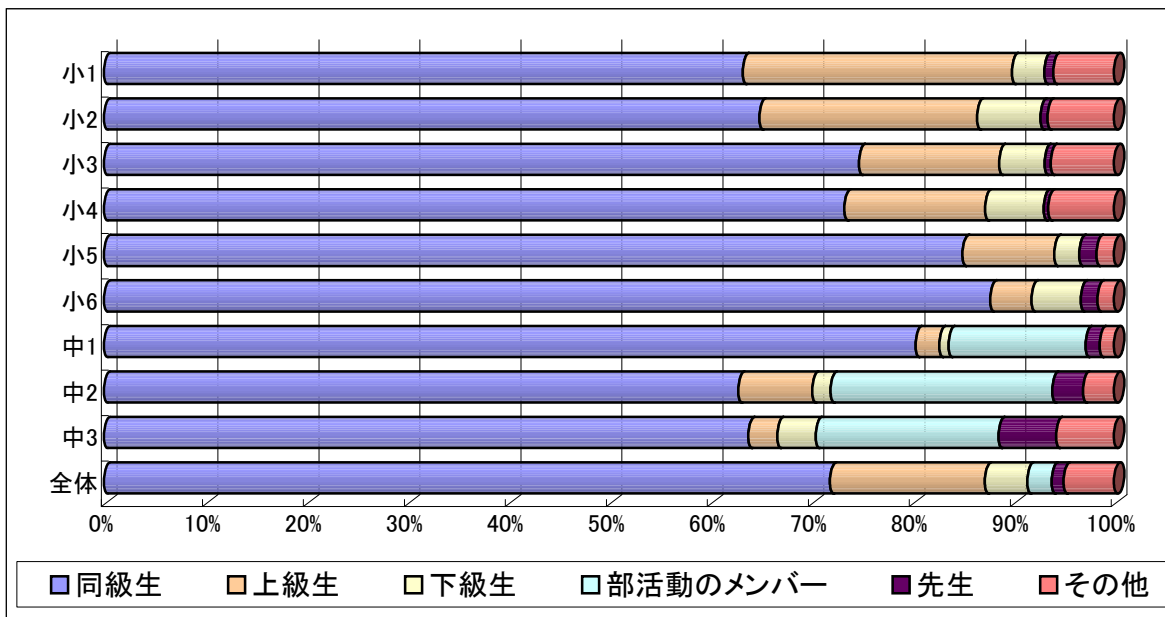
あなたは今年4月からこれまでに  
いじめられたことがありますか



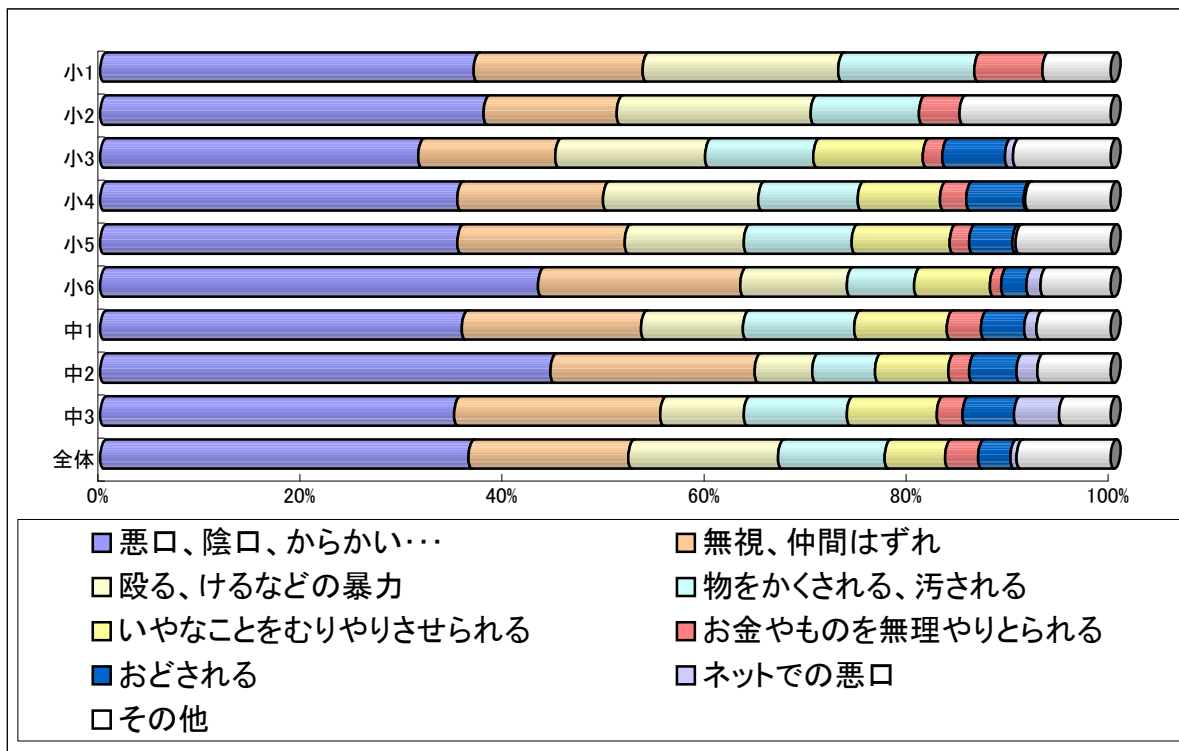
そのいじめは今も続いていますか



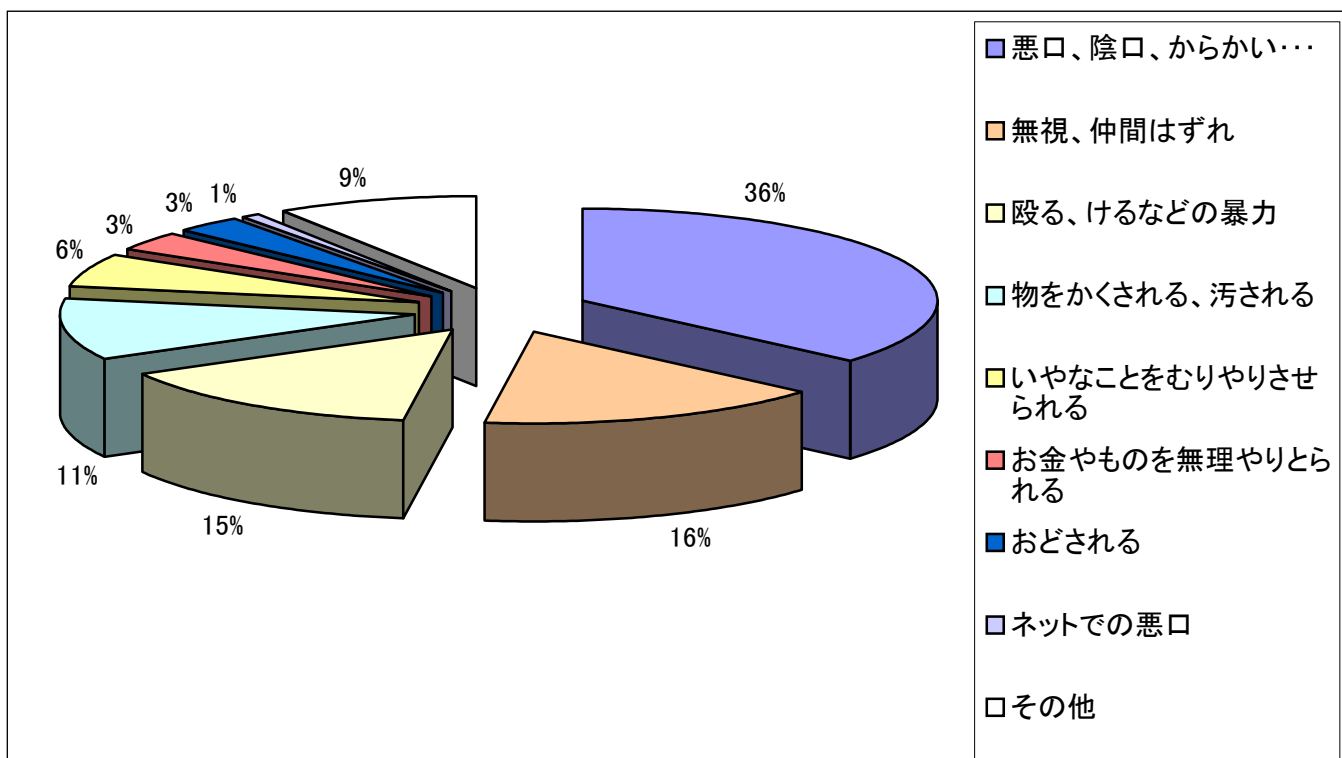
【グラフ2】「だれからいじめを受けましたか」（学年別）



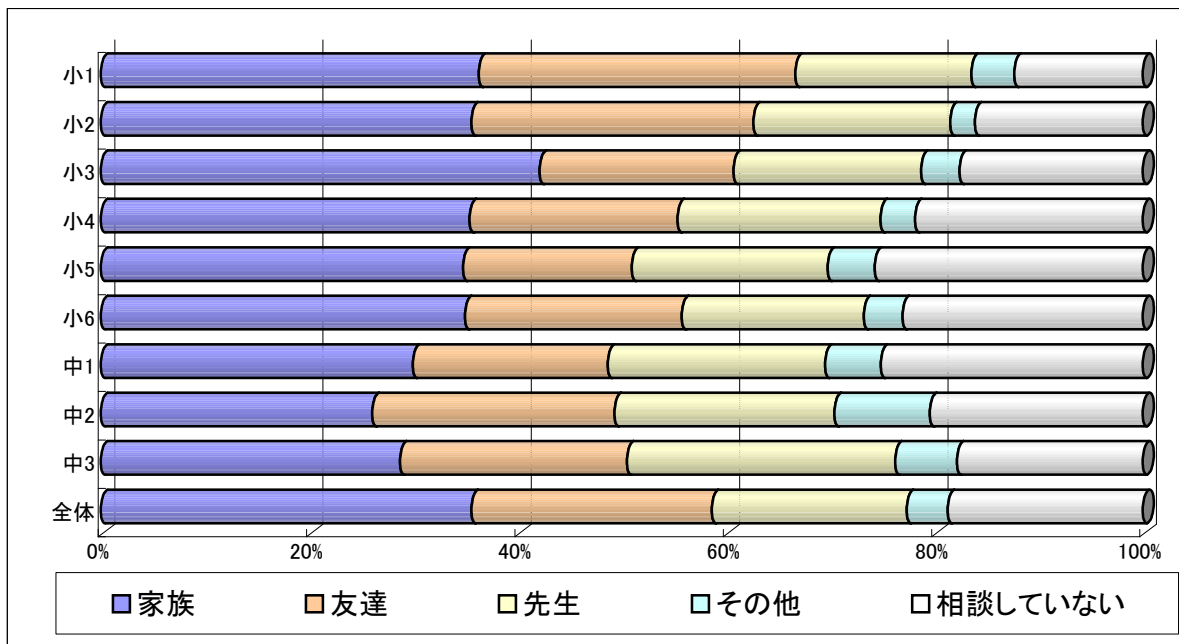
【グラフ3】「どんなことをされましたか」（学年別）



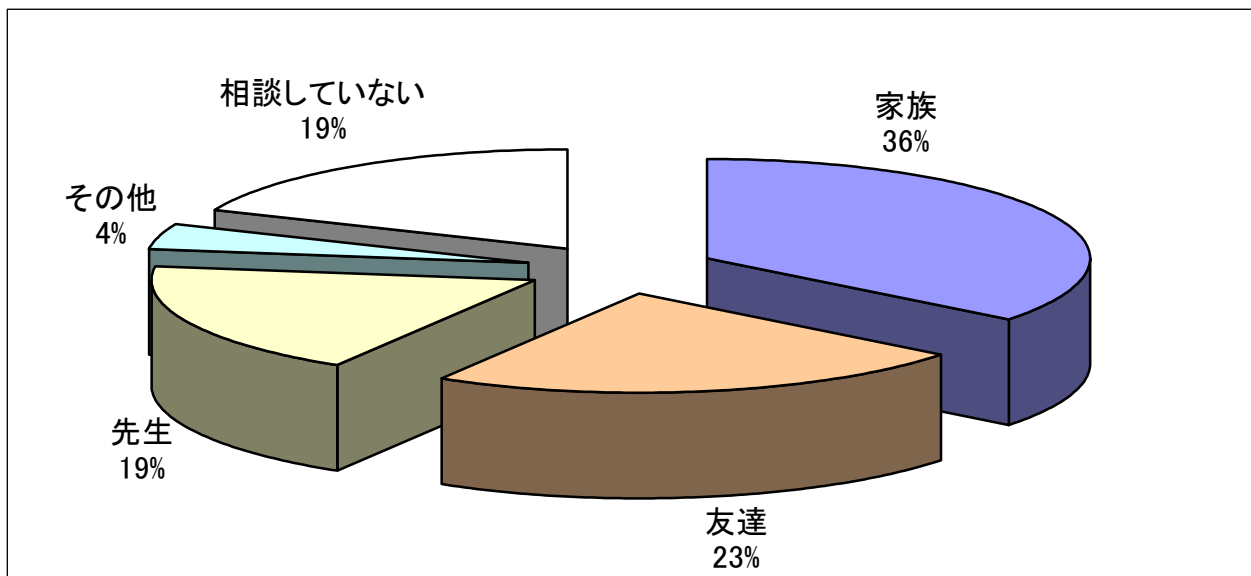
【グラフ3-1】「どんなことをされましたか」（全体）



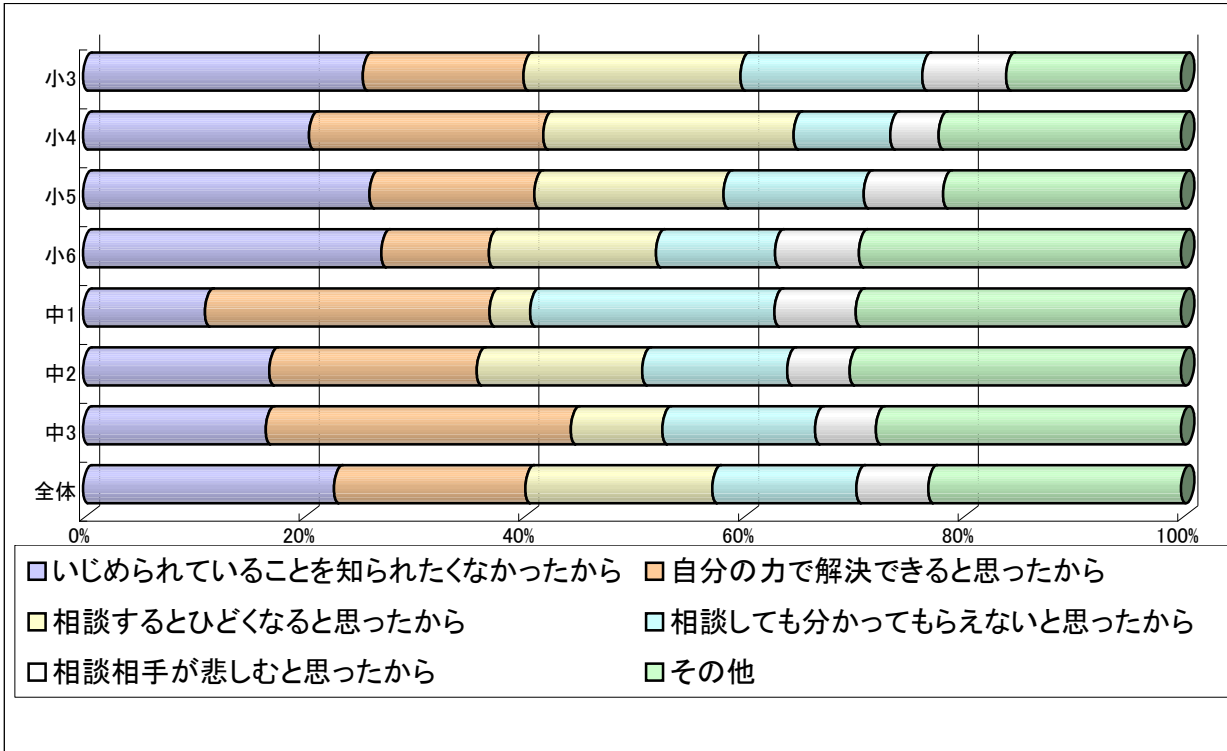
【グラフ4】「だれかに相談しましたか」（学年別）



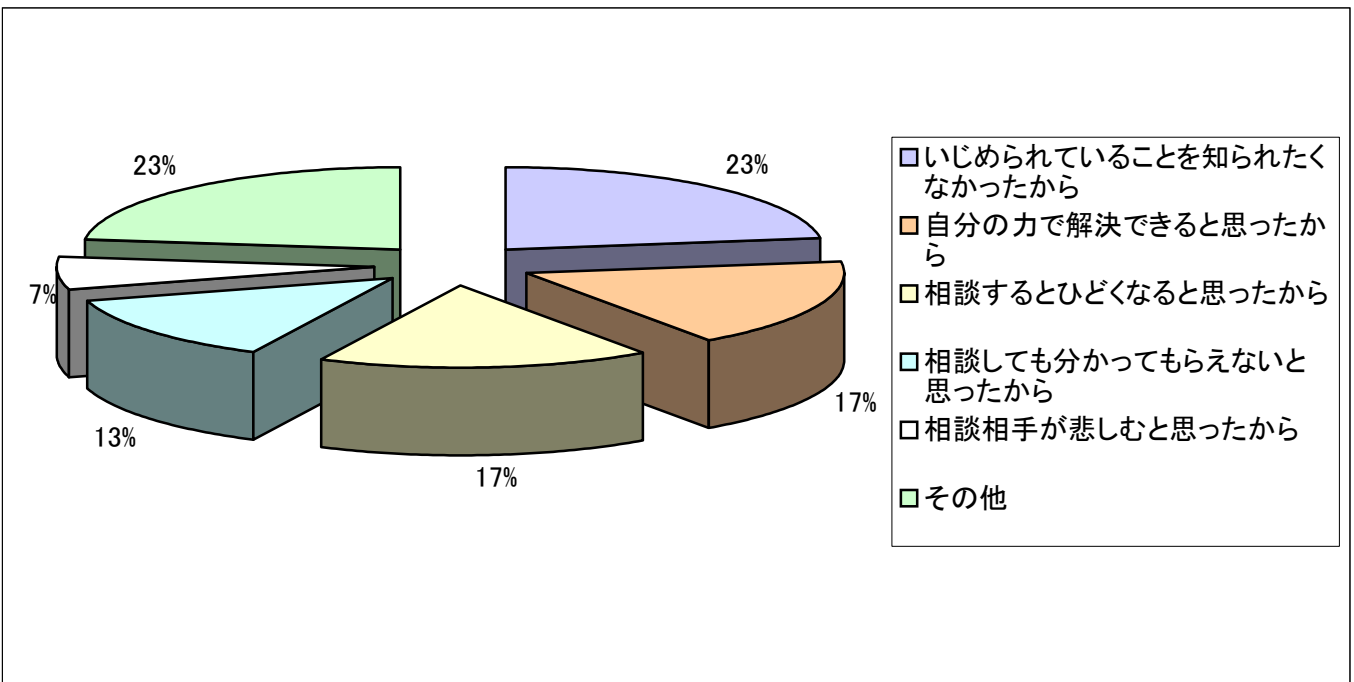
【グラフ4-1】「だれかに相談しましたか」（全体）



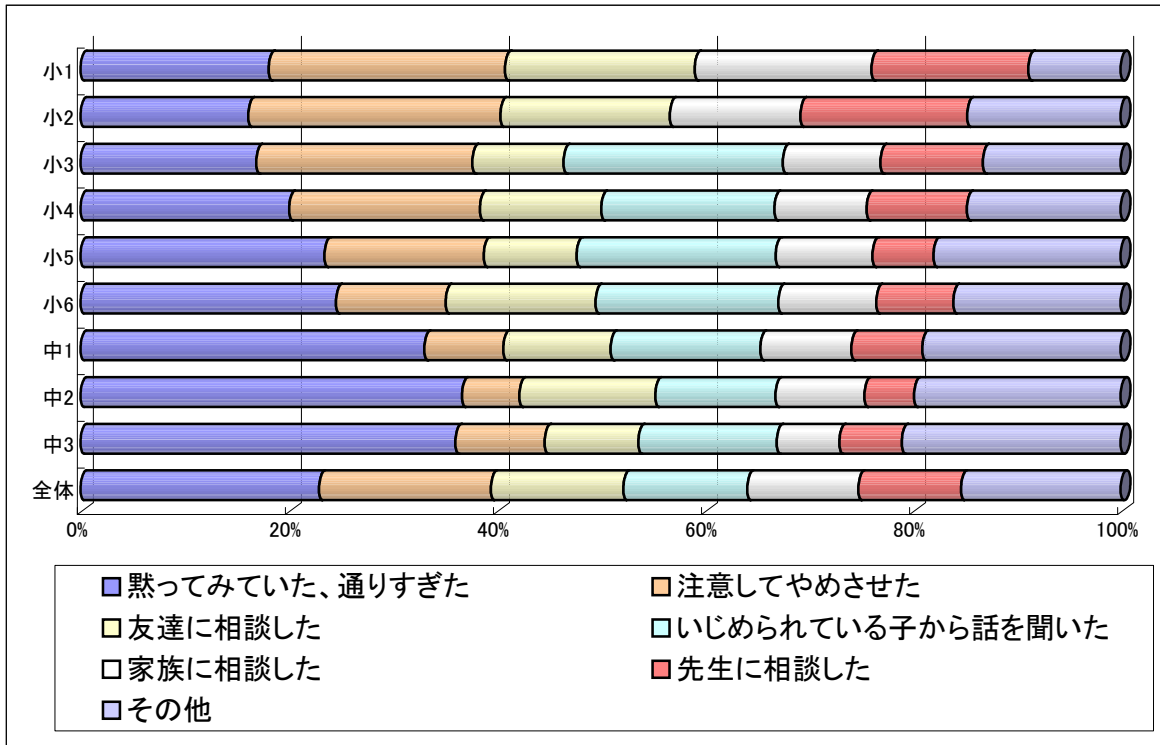
【グラフ5】「なぜ相談しなかったのですか」（学年別）



【グラフ5-1】「なぜ相談しなかったのですか」（全体）



【グラフ6】「いじめを見たり聞いたりしたとき、どうしましたか」（学年別）



【グラフ6-1】「いじめを見たり聞いたりしたとき、どうしましたか」（全体）

